

はじめに（序論）

近年、農業現場においては規模拡大や高齢化が進み、労働力・担い手不足が深刻な問題となっています。それを補うために、搾乳ロボットなどの機械導入、TMRセンターなどの営農支援組織の設立、従業員の雇用や外国人技能実習生の受入が進んでいます。

特に機械の導入においては、労働負担の軽減や農作業の省力化・効率化を自力で大きく進めることができる利点があります。根室管内においても、国の補助事業の利用等で、多くの農場が機械導入を図っています。

機械の導入は大きな恩恵を受けられる反面、多額の出費や作業体系の変化を伴います。そのため、自農場になぜその機械が必要なのか目的を明確にすることが重要です。加えて、導入後の生産性向上や費用対効果について、可能な限り調べておくことが望ましいと考えられます。

ただし、酪農機械の発展は日進月歩であり、当年に最新型だった機械が来年には型落ちになっていることもあり得ます。したがって、機械そのものの情報は定期的にインターネット等で入手するほうが適していると思われます。

そこで、令和4年の営農改善資料は、技術革新の続く酪農機器をテーマに、機材そのものではなく、導入の経緯や効果を重点的にまとめ、農場の経営改善のために活用してもらうことをねらいとして発行します。